

科目名称: 幼児理解と教育相談					
担当者名: 三宅 右久					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	3年前期	講義	必修	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24100311
授業概要: 幼稚園教諭・保育士にとって必要な基礎理論および相談・援助の方法について講義する。幼児の特性の理解を深め、幼児期の発達、幼児への発達支援、保護者への援助・対応、教育相談活動と専門家との連携について事例を取り上げながら理解していく。					
到達目標: 幼児期の発達を理解し、子どもへの発達援助を説明できる。保護者への対応を理解し、子育て支援の視点から説明できる。教育相談活動と専門家との連携について理解し、説明できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回	幼児の特性の理解(1)子どもを取り巻く環境		テキストのP10-17の予習(30)		
第2回	幼児の特性の理解(2)乳幼児の発達		テキストのP18-31の予習(30)		
第3回	幼児の特性の理解(3)発達に伴う諸問題		前回の内容を復習(30)		
第4回	遊びと幼児理解		前回の内容を復習(30)		
第5回	幼児理解と援助の手がかり		前回の内容を復習(30)		
第6回	子ども理解の技法		前回の内容を復習(30)		
第7回	発達障害や気になる子ども		テキストのP47-60の予習(30)		
第8回	発達検査・知能検査		関連科目の該当内容の復習(30)		
第9回	保護者への対応		テキストのP32-46の予習(30)		
第10回	カウンセリング技法のワーク		テキストのP80-85の予習(30)		
第11回	教育相談におけるコンサルテーション		テキストのP86-91の予習(30)		
第12回	専門家との連携		テキストのP92-96の予習(30)		
第13回	保育者の専門性と相談活動		テキストのP96-97,P99-109の予習(30)		
第14回	虐待の事例をどのように理解するか		第11、12、13回の内容の復習(30)		
第15回	現代社会の変化と発達援助		全体の復習(30)		
履修に必要な予備知識や技能: ①実習で関わった子どもの姿からその年齢の発達特性を整理しておくこと ②実習等で見聞した保護者に対する相談等の援助をまとめておくこと					
課題に対するフィードバック: 課題等への質問を講義時間内に受け付ける。					
評価方法・基準: 単位認定レポート50%、授業への参加度50%(毎回の提出物の記述が不十分だと減点対象)					
教科書: 教科書: 「子どもの理解と保育・教育相談」小田豊、秋田喜代美編(みらい)					
備考: 小テスト及び課題レポートにより、知識の定着を図る					
実務経験の内容・期間: 家庭児童相談室家庭相談員6年 児童相談所児童心理司16年(心理判定係長15年) 児童相談所担当所長2年 臨床心理士21年 公認心理師5年					